

# 地域住民の離脱と発言行動とその規定要因に関する研究

愛媛大学 学生会員 ○滋岡佑馬 愛媛大学大学院 正会員 羽鳥剛史

## 1. はじめに

近年、全国各地で地域の衰退が深刻な問題となっている。Hirschman の政治経済理論によると、地域住民は、地域の問題に対して大きく「離脱 (exit)」と「発言 (voice)」という 2 つの行動手段を持っている。ここで、離脱とは、地域に問題が発生した場合に、地域住民がその問題から逃れるために当該地域から離れることを表しており、一方、発言とは、地域住民が問題の解決に向けて自らの意見を表明することを表している。地域住民がいずれの手段を選択するかは、その地域の存続にとって重要な問題である。この認識の下、本研究では、地域住民の離脱と発言行動の規定要因を調べるとともに、地域と関わりを持った経験の想起と離脱及び発言行動との関連について検討することを目的とした。

## 2. 理論仮説

本研究では、地域に関する記憶の想起が「地域との結び付き意識」に及ぼす影響、及び、「地域との結び付き意識」と地域住民の「離脱」「発言」行動との関連について、以下の仮説を措定した。

**仮説 1** 地域に関する「記憶の想起」によって「地域との結びつき意識」が高まる。

**仮説 2** 「地域との結びつき意識」が高い人ほど、「発言意図」が高く、「離脱意図」が低い傾向にある。

以上の仮説が真であるならば、地域に関する「記憶の想起」によって、「地域との結び付き意識」が高まり、その結果、「離脱意図」が抑制され、「発言意図」が促進されるものと期待される。

## 3. 実験概要

### (1) 実験対象者

本実験では、上述した仮説を検証するために、愛媛県松山市中心街周辺の住民を対象にアンケート調査を実施した。この実験では、実験対象者を 2 つのグループに分けて、一方のグループ (実験群 65 名) には地域に関する記憶を想起する課題を課し、もう一方のグループ (統制群 46 名) にはそのような課題を課さなかった。実験対象者の属性の内訳は、男性 33 人 (29.7%)、女性 78 人 (70.3%)、その平均年齢は 56.08

歳、標準偏差は 19.61 歳であった。

### (2) 実験条件及び質問項目

まず、実験群には、地域に関する記憶を想起し、その内容について記述してもらうように要請した。具体的には、“あなたの住んでいる「まち」でもっとも印象に残っている思い出は何ですか？その当時の情景を浮かべながら、出来るだけ具体的にお書き下さい。”、“あなたの住んでいる「まち」での一番古い思い出は何ですか？その当時の情景を思い浮かべながら、出来るだけ具体的にお書き下さい。”という設問を設け、それぞれ自由記述にて回答を要請した。一方、統制群にはこれらの設問を設けなかった。その上で、「地域との結び付き意識」、「離脱意図」、「発言意図」に関する項目を設けた。

最初に「地域との結び付き意識」として、「愛着」、「帰属意識」、「組織コミットメント」、「忍耐」、「忠誠」、「共同体意識」尺度についての質問項目を設け、それぞれ 7 件法で回答を要請した。

次に、「離脱意図」については、“近い将来、他の「まち」に移るつもりがある。”、“もし可能ならば他の「まち」に移りたいと思っている。”、“これから先、今住んでいる「まち」にとどまるつもりがある。”という質問項目を設け、それぞれ 7 件法で回答を要請した。

最後に「発言意図」については、“近隣の住民と、自分が住んでいる「まち」の問題について話し合いたいと思う。”、“自分が住んでいる「まち」をより良くするために意見を言いたいと思う。”、“自分が住んでいる「まち」の話し合いやイベントに積極的に参加すべきだと思う。”、“自分が住んでいる「まち」に問題が発生したとき、その解決に向けて積極的に発言すべきだと思う。”という質問項目を設け、それぞれ 7 件法で回答を要請した。

## 4. 結果

### (1) 「地域に関わる記憶の想起」が「地域との結び付き意識」に及ぼす効果

実験群と統制群の間で、「地域との結び付き意識」を比較した結果を表-1 に示す。この表に示すように、地域に関する「記憶の想起」によって、「地域との結び付き意識」が高まる傾向が見られた。したがって、この

結果は、本研究の仮説 1 を支持するものと考えられる。

表-1：実験群と統制群間の「地域との結び付き意識」の比較結果

群	N	M	SD	t 検定		
				t 値	有意確率 (両側)	
愛着	実験群	62	5.52	1.322	1.501	.136
	統制群	46	5.11	1.476		
帰属意識	実験群	65	4.96	1.437	1.768	.080*
	統制群	46	4.46	1.545		
組織コミットメント	実験群	31	4.79	1.223	2.343	.023**
	統制群	23	3.87	1.667		
忍耐	実験群	65	4.98	1.102	1.539	.127
	統制群	46	4.62	1.338		
忠誠	実験群	30	5.29	1.129	1.931	.059*
	統制群	23	4.64	1.308		
共同体意識	実験群	65	4.66	1.016	.490	.625
	統制群	44	4.55	1.292		

\*:p<.10  
\*\*:p<.05

## (2) 「地域との結び付き意識」と「離脱意図」「発言意図」との関連

「地域との結び付き意識」と「離脱意図」・「発言意図」との相関分析を行った。その結果を表-2 に示す。この表に示すように、「地域との結び付き意識」が高い人ほど、「発言意図」が高い傾向にあり、「離脱意図」が低い傾向であると考えられる。この結果は、本研究の仮説 2 を支持するものと考えられる。

表-2：「地域との結び付き意識」と「離脱意図」「発言意図」との相関係数

	共同体意識	愛着	帰属意識	組織コミットメント	忍耐	忠誠
離脱意図	-.447***	-.493**	-.396***	-.465***	-.430***	-.684***
発言意図	.373***	.284***	.390***	.516***	.221**	.459***

\*\*p<.05  
\*\*\*p<.01

## (3) 「地域に関わる記憶の想起」が「離脱意図」「発言意図」に及ぼす効果

実験群と統制群の間で、「離脱意図」及び「発言意図」を比較した結果を表-3 に示す。この表に示すように、地域に関する「記憶の想起」によって、「離脱意図」は抑制される傾向、「発言意図」は促進される傾向がある可能性が高いと考えられる。

表-3：実験群と統制群間の「離脱意図」「発言意図」の比較結果

群	N	M	SD	t 検定		
				t 値	有意確率 (両側)	
離脱意図	実験群	65	2.33	1.502	-1.517	.132
	統制群	46	2.80	1.756		
発言意図	実験群	65	4.62	1.395	2.118	.036**
	統制群	46	4.05	1.378		

\*\*p<.05

## (4) 地域での体験内容の分析

実験群を対象にして、地域での経験や体験に関する記述において「公共施設」「自然」「マンション・商業施設」「家」について言及しているか否かを基に、これ

らの記述内容を分類することとした。各カテゴリーの具体的な内容については表-4 に示す。

表-4：記述内容の分類表

公共施設		対象		
		自然	マンション・商業施設	家
松山城	動物園	山	マンション	自分の家
市宮球場	駅・電車	水	アパート	バラックの家
学校	土木	季節	スーパーマーケット	友だちの家
病院	遺跡	気候	ビル	戸建ての家
道後温泉	公民館	植物	ゲームセンター	世主の家
お寺・神社	道路		キャバレー	宅地
公園	県民文化会館			
プール	警察署			
テニスコート	映画館			

ここでは、特に顕著な結果が見られた「公共施設」について説明する。表-5 に、公共施設を想起した群、公共施設を想起しなかった群、統制群の間で、「離脱意図」「発言意図」「地域との結び付き意識」を比較した結果を示す。この表に示すように、「公共施設」に関わる経験や体験を想起した人において、「地域との結び付き意識」や「発言意図」が高く、「離脱意図」が低い傾向が見られた。

表-5：公共施設想起群と公共施設非想起群、統制群間の比較結果

群	N	M	SD	公共施設想起群との t 検定		
				t 値	有意確率 (両側)	
離脱意図	公共施設想起群	50	2.20	1.449		
	公共施設非想起群	15	2.78	1.641	-1.314	
	統制群	46	2.80	1.756	-1.845	.068*
発言意図	公共施設想起群	50	4.68	1.336		
	公共施設非想起群	15	4.42	1.614	.626	.534
	統制群	46	4.05	1.378	2.260	.026**
共同体意識	公共施設想起群	50	4.79	.992		
	公共施設非想起群	15	4.22	1.005	1.950	.056*
	統制群	44	4.55	1.292	1.018	.311
愛着	公共施設想起群	48	5.63	1.168		
	公共施設非想起群	14	5.16	1.759	1.159	.251
	統制群	46	5.11	1.476	1.865	.065*
帰属意識	公共施設想起群	50	5.16	1.295		
	公共施設非想起群	15	4.30	1.720	2.085	.041**
	統制群	46	4.46	1.545	2.424	.017**
組織コミットメント	公共施設想起群	24	4.98	1.247		
	公共施設非想起群	7	4.14	.945	1.635	.113
	統制群	23	3.87	1.667	2.592	.013**
忍耐	公共施設想起群	50	5.09	1.082		
	公共施設非想起群	15	4.60	1.121	1.526	.132
	統制群	46	4.62	1.338	1.901	.060*
忠誠	公共施設想起群	23	5.48	1.126		
	公共施設非想起群	7	4.66	.954	1.743	.092*
	統制群	23	4.64	1.308	2.331	.024**

\*p<.10 \*\*p<.05 \*\*\*p<.01

## 5. 結論

本研究より、地域に関する「記憶の想起」によって「地域との結び付き意識」が高まる傾向があり、そして、「地域との結び付き意識」が高い人ほど、「発言意図」が高く、「離脱意図」が低い傾向にあることが示された。

### 参考文献

- 1) A・O・ハーシュマン：離脱・発言・忠誠（1970）。（矢野修一訳）、ミネルヴァ書房、2005。
- 2) 鈴木春菜、藤井聡：地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究、土木計画学研究・論文集、土木学会土木計画学研究委員会、25(2)、pp. 357-362、2008
- 3) Mark Van Vugt, Keith Dowding, Peter John, Eric Van Dijk：The Exit of Residential Mobility or the Voice of Political Action? Strategies for Problem Solving in Residential Communities Applied Social Psychology、33, 2, pp.321-338, 2003.